

「今私たちは災害とどうやって向き合っていくか」

須賀川市立第三中学校 二年 岩谷 芽依

た
く
さ
ん
の
人
が
覚
え
て
い
る
で
あ
ら
う
。
あ
の
悲
劇
を
。

二
〇
〇
八
年
山
手
・
宮
城
内
陸
地
震
、
二
〇
十
一
年
東
日
本
大
震
災
、
二
〇
十
八
年
大
阪
北
部
地
震
。

こ
れ
だ
け
じ
や
な
い
。
た
く
さ
ん
の
災
害
が
人
々
を
苦
し
め
続
け
て
い
る
。

私
は
思
う
。
こ
の
地
震
は
ど
う
い
う
災
害
を
も
た
ら
し
て
い
る
ん
だ
ら
う
か
、
と
。
そ
こ
で
、
私
は
、

東
日
本
大
震
災
を
味
わ
っ
た
祖
母
に
話
を
聞
い
た
。
「
あ
の
と
き
は
ね
え
。
本
当
に
こ
あ
か
っ
た
ん
だ

よ
。
テ
レ
ビ
を
み
る
と
、
土
砂
災
害
が
お
き
て
い
て

ね
え
、
か
け
か
崩
れ
て
、
人
の
命
が
奪
わ
れ
た
二
ユ

一
ス
や
家
が
「
ぶ
れ
て
し
ま
っ
た
二
ユ
一
ス
か
な
か

れ
て
い
て
ね
。
み
る
か
と
も
い
や
だ
っ
た
よ
レ
。

の
イ
メ
ー
ジ
が
変
わ
っ
た
。
と
も
危
険
と
い
う
こ

と
が
改
め
て
感
じ
ら
れ
た
。
そ
ん
な
災
害
に
対
し
て
「
私
た
ち
は
何
も
ひ
き
な
い
の
か
？
い
や
、
で
き
る
は
ず
。
」
こ
う
思
っ
た
私
は
防
止
対
策
は
ど
の
よ
う
な
の
か
あ
る
か
調
べ
て
み
た
。

る。 て おく こと は、 災害 の とき に すぐ 便利 に な
 れる。 その 人の 命 を 救う こと が でき る。 知
 所 を 知っ て おく こと で、 知ら ない 人 に 教えら
 かり 自 分の 身 を 守る こと が でき ます。 危 険 な 場
 る。 そ う す れ ば 安 全 に 行 く こと が でき、 し
 く と 子 に、 そ こ を 通 ら ない で 行 く こと が でき
 ニ ッ 目 は 危 険 な 場 所 を 確 か め て お く こと だ。
 だ。 こ れ は、 確 か め て お く こと で 避 難 所 ま で 行
 ギ ー ド マ ッ プ を 用 意 し て 話 し 合 う こと が 大 切
 の て し ま っ て は 元 ち 子 も ない。 あ ら か じ め っ
 し て 道 順 を 決 め て お く こと だ。 命 が 奪
 わ れ て し ま う 可 能 性 が 高 く な っ て し ま う。 そ
 く な っ て し ま う。 そ う なる と い っ き に 命 が 奪
 お ニ っ た と き、 混 乱 し て すぐ 行 動 に う っ せ なる
 が でき る。 それ に、 も し っ て い な か っ た ら
 て 災 害 が お き た と き、 すぐ 行 動 に う っ す こと
 く と い う こと だ。 避 難 場 所 を 決 め て お く こと
 ま ず 目 に 付 いた の は、 避 難 場 所 を 決 め て お

返し、覚え、覚えることは得になる。
 何回もやっておくことが大切だ。と思う。くり
 分の命を守ることにできる。そのため何回も
 経験がでる。だ。その緊張感を知って、お
 う。する。こと。で。緊張感が味あえても、いい
 おいて損はない。むしろやるべきだと私は思
 じが強いかもしれない。でも、大人もやって
 避難訓練は子どもがやっていけるとい
 四つ目は避難訓練に参加するとい
 ければ、命を守れるだろう。
 災害は一回だけとは限らない。覚えてお
 なって、いる人を助けられること。が、できる
 すれば、どうすればいいか分からず、動けなく
 たとき、スムーズに動くことができる。そう
 と、その行動が体にしみついて、災害がおき
 てみるだけで、すいぶん違う。一回でもやる
 く、低いだろう。だが、一回でも逃げられる
 図をみた。ただ、たどりつける可能性は限り
 三つ目は逃げ方を覚えること。た。地

次は家でできる対策だ。
一つ目は、出入り口や通路、玄関などに倒
れやすい物、家具を置かないということだ。
とても基本的なことかもしれない。でも案外
できていない人もいるのではないかと。もし土
砂災害によつて家具を倒れ、玄関をふさいで
しまつたら？命が助からなくなつてしまふか
もしれない。そうならないようにするために
玄関や通り道に物を置かないようにすること
は大事なことだ。

二つ目は家の点検を定期的にするというこ
とだ。これをやつていている人は少ないのではな
いだろうか。これは難しいかもしれない。で
も、やつておくことで損はないだろう。もし
災害がおきても家の被害は最少でおさまるだ
ろう。だが、ひびがはいつているのに直さな
かつたり、古いのに変えず、元のままにして
おくとは、災害がおきたとき、家がぼろぼろに
なつてしまふ、大切なものがなくなつてしま
うかもしれない。

守れるようにしようと思っただけ、それもちやんとやり、私自身もしっかり命を
 だててきていない防災の取り組みがあるの、
 かなしいといけないう思っただけ、私かま
 私はおもった防災は大切といふことを伝えている
 さんいるからではないのかと思っただけ、
 はまだきちんとして対策ができていない人がた
 なかなか災害がおきたときに被害が大きいの
 たくさんあるといふことが分かった。なのに
 ここまで調べると、私たちにできることは
 いうことは重要なことだ。
 の人の命を守ることもできる。準備えると
 とかできる。他の人にもあげれば、たくさん
 たとき、これがあれば、空腹から、逃れるこ
 ツズクの中には、非常食がある。災害がおき
 といふ人も多いのではないだろうか。防災が
 かる確率かとも上がる。えのため家にある
 いるだろうか。防災グッズがあれば、命が助
 といふことだ。これかどんなに便利か知って
 三つ目は家の中に防災グッズを備えておく